



湯本洋一さん  
赤岩区氏子副総代長

池田茂さん  
中野市長

中村敏幸さん  
日和山神社  
芸能保存会長

出川聖流さん  
中野立志館高等学校  
生徒会役員

田中紅葉さん  
中野立志館高等学校  
副生徒会長

# お祭り座談会

～地域文化の継承を考える～

お祭りに対する「イメージ」や「思い」を聞かせてください。

池田 幼いころの私にとってお祭りは一大イベントであり、多くの人が集まるとても賑やかなイメージがあります。ただ、地元のお祭りしか参加していなかったもので、市長になってから「中野市ってお祭り多いよね」と言われたことから、各地区にお祭りがしっかりと伝承されているということを知りました。これは天領時代の文化につながる一つの証でもあるので、大事に残していくとともに貴重な財産として情報発信することが大切だと思います。

湯本 お祭りは江戸時代の後半から各地区で盛んに行われてきたものです。お祭りにはいろんな芸能が付随しており、江戸時代の文化が現在に残る貴重な文化財ではないかと思えます。

田中 私のお祭りのイメージは、伝統を守っているというイメージがあります。お囃子とかも本当によく聞かないと分からないことが多くて、祖父や祖母に聞けば、五穀豊穡を唄っていたりと、とても大切なことを言っているの、そういったことを知っていく

ことも大切だと思います。お祭りの実情や苦勞されることは何ですか。



中村 約50年前から保存会として活動しており、今は45名ほどの方が常時参加してくれています。一番の問題は後継者が減っていることです。やりたくないのではなく、地域から人が出て行ってしまっている、やる人がいないことが問題ですね。あと「残った後継者をいかに育てていくか」も大切なことだと思います。

出川 自分の地区では、小学生の子どもたちが太鼓演奏などでお祭りに参加しています。が、どんどん人数が減ってきているので寂しく感じます。また、祭囃子を演奏する人も、どんどん年を取っていくので「若い人」といっても小学生しか参加していなくて、自分も含めほかの高校生も、見に行くことはあってもあまり参



加していないのが実情です。湯本 厳しい実情もあります。が、祭りは貴重な文化財なので私たちの時代で終わらせてしまつては大変もつたないと思います。中野市の祭りは各地区で特徴があり、ほかでは真似することのできない「おらほの祭り」だと思えます。これからの祭りは、区民の方が楽しみながら、市内の方や海外の方にも楽しんでいただき、財産として継承していくことが大切だと思います。これは、大きな都市ではできないことですね。

継承に必要なことは、どういったことでしょうか。

田中 私の住む地域では、保存会の人と子どもたちが祭りに参加しますが、男の子しか参加してはいけないといったルールがありました。今では人数が少なくて女の子も参加しています。そういった決

まりを作ることなく、どんな人でも希望する人には参加できるように変えられたらいいなと思います。

池田 私が横浜に住んでいるときに、「祭りだから田舎に帰ります」という人がいたのを覚えています。お祭りの文化は、たとえ市外へ出ていく人でも地域とのつながりを残しておく一つの方法ではないでしょうか。先日、赤岩区のお祭りに行った際、「祭りのために帰ってきた」と、全く同じことを話す方がいて、とても感動しました。祭りは、地区ごと独自に行いますが、市全体としても財産です。まずはほかの地区でどんな祭りが行われているか「知ってもらう」ことが大切ですね。



からお祭りに関わることで次の継承につながっていきけるのではないかと思っています。湯本 赤岩地区のお祭りは毎年10月7・8日に行われますが、その際には小学校がお休みになります。そのため、どの子もお祭りに参加できるというの、ほかの地区ではないことではないでしょうか。その年の干支の人は全員参加するなどの仕組みも出来上がっており、8日の昼は山車が里宮から中社へ練り歩きますが、その沿道には平日・休日問わず約千人の人が集まります。

**最後に、皆さんにとってお祭りがどうなっていてほしいですか。**

田中 伝統ですし、私たちがおじいちゃんおばあちゃんになっても子どもたちに興味を

持っていてもらえるよう、今から、老若男女問わずに伝承していけるようにしていきたいです。そのためにも、やりたいという希望のある人がどんどん参加できる環境づくりが必要だと思います。

出川 祭り文化は継承していくべきだと自分も思います。地域の中では、「よそのところに参加するのは失礼」という考えもあるのですが、皆さんと話してみても、やっぱりいいことなのかなと思います。

田中 私もそう思います。見に行きたいんだけど、違う地区だとシックレット感があるので、チラシとかでほかの地域の祭りの情報を得たりできると良いですね。

池田 まさに「見に来ていただくだけ」でもいいんです。見てもらうことでその地域が活気付くと思いますね。

中村 そうですね。見に来ていただき、獅子舞などの出番



承していくことができるのではないのでしょうか。また、観光客が来るということは、自然とお金も動くようになるので、地域も潤い、町全体も潤っていいのではないかと私は思います。特に、海外の方には日本の地域文化として、とても喜んでいただけるのではないのでしょうか。

池田 湯本さんからもありましたが、知恵を絞って、伝統を守っていくことが、行政として大切なことの一つだと思います。また、地域のお祭りを知っていただき、来ていただくことで、この地域の良さを感じてもらい、それによって「来た方とのつながりを残していく」仕組みを作っていくことも大切だと思います。全国の大きなお祭りに目が行きがちですが、「地元にこれだけのお祭りがあるんだ」ということに私も感動しています。伝統がこの地域に息づいていることを認知していただき、生き生きと祭りに参加してもらい、市の財産として残していきたいですね。

が増えれば、その分練習するということにもつながると思います。市でも設備の援助も含め、イベントや交流会などを企画し、出演させてもらえるように計画してもらえればありがたいです。出るからには練習すると思うので、そういう環境も地域の「誇り」や「自慢」になり、継続につながっていくと思います。湯本 ほかの地域のお祭りを見る機会は少ないと思うので、県外のお客さんにも見に来てもらえるようにしたいですね。天領時代のころから受け継がれている文化なので、堂々と皆さんに見ていただき、お祭りを大きな商品として観光客にも来ていただくことで、お祭り文化も今後継

**皆さんもお祭りに興味が高まってきませんか。湧いてきませんか。さあ、各地域自慢の「おらほの祭り」に出掛けてみましょう。**